

Ⅱ. ともいき IPE プロジェクトの概要

1. 研究の背景

我が国では、人口の超高齢化に伴う健康・介護問題、成人期の自殺やうつなどのメンタルヘルス問題、児童の虐待や貧困問題、自然・人為災害後の健康・生活問題など、保健医療福祉が取り組むべき健康・生活課題が複雑化・複合化している。このような複雑な課題に対応するため、医学モデルを中心としたキュア（Cure：救命、治療）から、生活モデルに基づくケア（Care：保護、介護）へのパラダイムシフトが求められている。このケアの概念は、仏教の根本理念である「縁起」に裏打ちされた「自利」「他利」「共利」と「共生（ともいき）」の思想に通じており、今日の健康・生活課題やケア概念そのものについて、仏教的視点から問い直すことは重要な意味を持つであろう。

またこのパラダイムのシフトは、理念だけではなく、保健医療福祉のシステムや、ケア提供における戦略の転換を求めるものである（松岡、2013）。WHO（世界保健機関）は、今日的なヘルスケア課題に対応するための最適なストラテジーは、多職種連携教育（以下 IPE：Interprofessional Education）と連携実践（collaborative practice）であるとし、2010 年にテクニカルレポート“Framework for action on interprofessional education and collaborative practice”（以下 WHO フレームワーク）を示して国レベルの政策課題として、その推進を求めている。しかし一方で、ヘルスケア専門職を対象とした教育カリキュラムは分断的で時代遅れ、かつ変化に乏しく、現状の課題に十分対応できていないとの指摘がなされており、次世代を見据えた教育あり方が問われている。

本学は、仏教精神に則って社会的課題を果たす人材育成を目指しており、仏教をはじめとして、社会福祉、保健医療など人のケアにかかわる学部・学科が配置されている。こうしたことから、本学での IPE の基盤は整えられているといえ、現状の健康・生活課題に対応できる人材育成のために、学部・学科を横断した有機的な教育プログラムの開発と実践をしていくことが可能であると考えられる。

一方、保健医療福祉専門職の教育は高等教育に限られるものではなく、WHO フレームワークで提言されているように、実践現場における多職種連携実践（以下 IPW：Interprofessional Work）推進のための現任者教育が求められている。例えば、我が国の保健医療福祉の重要課題である高齢者領域での地域包括ケア、障害者領域の地域移行・定着支援の推進においては、IPW が成功の鍵を握っているといえ、IPW を促進するスキルを持つ保健医療福祉専門職の育成は喫緊の課題であり、現任者を対象とした IPE プログラム開発と実践が求められている。

●本研究の独創的な点

IPW・IPEの研究は、これまで英国や米国を中心とした欧米諸国で先進的に行われ、その知見の蓄積は膨大なものとなっている。しかし、これらの知見や枠組みは非常に参考になるものであるが、基本的には欧米の文化・価値を背景として発展してきたものであり、日本の文化や価値・思考にそぐわない点もある。本プロジェクトにおいて、日本型IPWの実態やIPWコンピテンシー、学生・現任教育におけるIPEのニーズを明らかにすることと、「ともいき」という日本の文化・価値基盤になじむ基本的理念に基づいたIPEプログラムを開発することは、今後保健医療福祉専門職の教育においてIPE・IPWが当然とされる中で、独創性を発揮できるものと考えられる。

●期待される成果の結果と意義

本研究は、共生（ともいき）の理念に基づく保健医療福祉の今日的な課題に取り組む保健医療福祉専門職の育成のためのIPEプログラム開発を目指しており、このことは「自己を極め、共に生き、他者を支える人間性を育て、人の一生に関わる諸問題と真摯に向き合い、自ら課題解明に取り組む専門性と対応力を育てる」という本学の教育理念に合致したものである。本学の教育理念を身につけた卒業生の輩出は、様々な保健医療福祉のケア現場において仏教精神を有し本学の理念を体現する人育てにつながり、将来的に社会貢献に果たす役割は大きいと考えられる。

また、保健医療福祉現場の現任者のIPEプログラムの開発と実施は、地域包括ケアを代表とする新たな保健医療福祉ケアのパラダイムにおいて効果的なIPWを促進することにつながり、そのことは保健医療福祉サービス利用者に対して質の高いケア提供につながると確信できる。

2. 研究目的

本研究の目的は、共生（ともいき）の理念に基づいた保健医療福祉専門職の高等教育におけるIPEプログラムと、実践現場でのIPWを促進するIPEプログラムの開発を行い、高等教育と現任教育の場で適用して、評価することである。

3. 研究組織

（所属・職位は2018年3月現在）

氏名	所属（学科） 職位	種別	役割（年度）
日隈ふみ子	保健医療技術学部（看護）教授	研究員	研究代表、研究統括
伊藤 真宏	仏教学部（仏教）准教授	研究員	IPE 班
漆葉 成彦	保健医療技術学部（作業療法）教授	研究員	IPW 班（精神班）
折坂 義雄	保健医療技術学部（看護）教授	研究員	IPE 班（2016年度～）

II. ともいき IPE プロジェクトの概要

荻山 和生	保健医療技術学部（作業療法）准教授	研究員	IPW 班（精神班）
後藤小夜子	保健医療技術学部（看護）助教	研究員	IPW 班、会計
篠原由利子	社会福祉学部（社会福祉）教授	研究員	IPW 班（精神班）
白井はる奈	保健医療技術学部（作業療法）准教授	研究員	IPE 班
白星 伸一	保健医療技術学部（理学療法）准教授	研究員	IPE 班
菅野 圭子	保健医療技術学部（作業療法）准教授	研究員	IPW 班
高橋 亮	元保健医療技術学部（看護）准教授	研究員	IPE 班（2015 年度のみ）
田尻 后子	保健医療技術学部（看護）准教授	研究員	IPW 班
得丸 敬三	保健医療技術学部（理学療法）准教授	研究員	IPE 班
濱吉 美穂	保健医療技術学部（看護）准教授	研究員	IPW 班、事務局
林 悠子	社会福祉学部（社会福祉）准教授	研究員	IPW 班
松岡 克尚	関西学院大学人間福祉学部（社会福祉）教授	嘱託研究員	IPW 班
松岡 千代	保健医療技術学部（看護）教授	研究員	統括事務局
村岡 潔	社会福祉学部（社会福祉）教授	研究員	IPW 班
森安 朋子	保健医療技術学部（看護）講師	研究員	IPW 班
吉浜 文洋	保健医療技術学部（看護）教授	研究員	IPW 班（精神班）
吉見 憲二	社会学部（現代社会）講師	研究員	IPE 班
利木佐起子	保健医療技術学部（看護）准教授	研究員	IPE 班

4. 活動概要

1) 2015 年度

(1) 研究会・会議 場所：佛教大学二条 C N1-320

	日時	内 容
1	4 月 15 日(水) 17:00～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合研究所からの予算執行等の説明（総合研究所共同研究事務手続きの手引き） ・ IPE・IPW 班の新規追加メンバーの紹介 ・ 今後の研究活動内容の確認
2	7 月 23 日(水) 17:00～	<ul style="list-style-type: none"> ・ IPE・IPW 班のリーダー決定 ・ IPE 実践に向けた教員対象研修の振り返り ・ キックオフ講演会開催の検討

3	10月7日(水) 17:00～	<ul style="list-style-type: none"> ・キックオフ講演会の振り返り ・佛教大学における IPE とカリキュラムの検討 ・佛教大学学生に対する IPE 意識調査の実施検討 ・新たな IPW 研究班の立ち上げ ・緩和ケア、ターミナルケアの調査研究実施の方向性検討
4	1月6日(水) 17:00～	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度の活動報告 ・2016年度の予算報告と活内容の計画見直し ・学生対象 IPE 研修会について、EOL ケアをテーマに進めることを決定

(2) 研究活動

	日時・場所	内 容	備考
1	7月4日(土) 10:00～16:00 佛教大学二条 C N1-207	<p>教員対象 IPE スキルトレーニング1の実施ワークショップ：「TRUE COLORS 入門講座」</p> <p>講 師：松岡千代（佛教大学保健医療技術学部）</p> <p>参加者：日隈・漆葉・荻山・菅野・後藤・篠原・白井・田尻・濱吉・森安・吉浜・利木・吉見</p> <p>内 容：コミュニケーション・対人関係改善スキルの習得を目的とした「自己を知る」「他者を知る」「相手の違いを受け入れる」という3理念を基盤とした True Colors ワークショップ形式の講座</p>	Ⅲ-3-1) 参照
2	7月31日(金) ～8月1日(土) 長野県佐久市	<p>臨床家のための協働研究会（「歩く研究会」in 南佐久）への参加</p> <p>参加者：濱吉、後藤</p> <p>内 容：訪問看護ステーション、老人保健施設等の同行見学、佐久総合病院見学、川上村社会福祉協議会職員による地域医療福祉連携の取り組み、ヘルシーパーク構想についての講義を受講し、参加者間で意見交換を実施</p>	Ⅲ-1-2)- (1) 参照
3	8月8日(土) ～8月9日(日) 首都大学東京荒川 C	<p>第8回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会への参加</p> <p>参加者：日隈、松岡（千）</p> <p>内 容：認知症ケアにおける多職種連携に関する専門職者による発表の聴講、ワールドカフェ方式の IPW・IPE 能力抽出のワークショップへの参加</p>	
4	8月27日(木) 佛教大学二条 C N1-320	<p>IPW・IPE 研修報告会</p> <p>内容</p> <p>①「歩く会」in 南佐久への参加報告 報告者：濱吉、後藤</p> <p>②日本保健医療福祉連携教育学会（JAIPE）学術集会への参加報告 報告者：松岡（千）</p>	

Ⅱ. ともいき IPE プロジェクトの概要

5	9月9日(水) 佛教大学二条 C N1-741	ともいき IPE プロジェクトキックオフ講演会 講 師：大塚真理子（旧：千葉大学大学院看護学研究科附属専門職連携教育研究センター特任教授） 講 演「日本の大学教育における専門職連携教育の現状と導入方法」 日 時：2015 年 9 月 9 日(水) 15：30～17：00 参加者：研究員（日隈・漆葉・折坂・後藤・荻山・篠原・白井・白星・菅野・田尻・得丸・濱吉・松岡（千）・村岡・森安・吉浜・吉見・利木）、他保健医療技術学部教員	Ⅲ-1-1)- (1) 参照 (但し Web 上では非公開)
6	10月16(金) 場所：京都市北区原谷地域包括センター	京都市内の特定地域における IPW 実態調査 対象者：地域包括支援センター介護支援専門員 実施者：日隈、後藤、濱吉 内 容：北区における母子・老年・精神といった多様な対象者を複数領域への支援活動の実際について聞き取り調査を実施 結 果：地域のなかでも自治会単位や職能団体別の自助活動が京都では古くより確立しており、その活動とどのように連携して地域社会における自立生活困難者をサポートしていくかを考えながら活動しているとのことであった。	
7	11月9日(月) ～11月20日(金) 佛教大学紫野 C	佛教大学「鷹陵祭」総合研究所活動報告ポスター展示 内 容：2015 年ともいき IPE プロジェクト活動報告これまでのPJ活動についての概要報告をポスター展示にて行った。	Ⅵ-1 参照
8	12月7日(月) 佛教大学二条 C	「ともいき」の理念についての学習会 講 師：伊藤真宏（仏教学部） 参加者：日隈・漆葉・折坂・荻山・菅野・後藤・篠原・白星・白井・田尻・得丸・濱吉・林・松岡（千）・森安・吉浜・利木・吉見 内 容：様々な立場で悩み苦しむ者に対し、自身は何をすべきか、何ができるのかを正しく判断し、自然に手を差し伸べる気持ちを持ち、行動力と実践技術を備えた人材育成を目指す、佛教大学の「仏教精神」に基づく建学理念について解説がなされ、参加者間にて意見交換が行われた。	Ⅲ-2-1)- (1) 参照
9	12月22日(火)、 12月24日(木) 千葉大学亥鼻 C	千葉大学亥鼻 IPE プログラム (Step3) 視察 参加者：1 日目 篠原、吉見、濱吉、松岡（千） 2 日目 日隈、荻山、吉見、松岡（克）、松岡（千） 内 容：千葉大学亥鼻 IPE (医学部、薬学部、看護学部、他学部、他大学学生対象)として1年次から4年次にかけてステップを踏んだ IPE がなされている。今回3年生対象の Step3 を視察した。	Ⅲ-1-1)- (2) 参照

10	1月14日(木) 佛教大学二条 C N1-320	千葉大学亥鼻 IPE 視察報告会 発表者：松岡（千）、吉見 内 容：千葉大学亥鼻IPE Step3 の概要と大学のカリキュラムに導入時の経過や導入後の運営の現状について報告した。今後、佛教大学で IPE を取り入れる場合の課題や導入するにあたっての運営等に関する討議を行った。	同上
11	1月15日(金) ～1月30日(土)	学生対象 IPE 意識調査（研究） テーマ：「共生（ともいき）の理念に基づいた保健医療福祉専門職のための IPE プログラムの開発と評価」 対象者：保健医療福祉専門職に関係した学部学科の1回生 研究者：吉見憲二 内 容：各学部学科の1回生に RIPLS（IPE の準備状況を把握するための尺度）と社会的スキル尺度を用いたアンケートを実施し、アンケート結果と先行研究との比較を行い、IPE への準備状況を確認した。	佛教大学 総合研究 所紀要、 第24号、 65-76、 2017 参照
12	3月4日(金) 14:30～15:30 場所：京都市保健福祉局長寿社会部長寿福祉課	京都市における地域医療福祉連携の現状についての聞き取り調査 参加者：濱吉、日隈、松岡（千）、後藤 内 容：地域包括ケア・在宅福祉担当者に京都市内の行政および保健医療福祉の連携や地域包括支援センターの活動状況についての聞き取りを行った。京都市は歴史上の区域圏が存在しており、全区で統一した地域連携が難しいところがある。母子・老年・精神等の異なる対象への地域での横の連携に関する取り組みは実施されていないとのことであった。	

2) 2016 年度

(1) 研究会・会議 場所：佛教大学二条 C N1-320

	日時／場所	内 容	備考
1	6月21日(火) 17:30～	・今年度の取り組みについて ・シンポジウム開催について ・佛教大学における IPE 教育プロジェクトの検討 ・IPW 班調査の現状と今後の活動について	
2	7月28日(木) 17:30～	・国際保健医療福祉連携教育学会（英国）：ATBH（All Together Better Health）参加者の選出 ・IPW 精神班による医療観察病棟における医療観察法に基づく専門的多職種チーム（MDT：Multi-disciplinary Team）の現状調査の訪問先の検討	

II. ともいき IPE プロジェクトの概要

3	11月22日(火) 17:30～	<ul style="list-style-type: none"> ・国際保健医療福祉連携教育学会：ATBH（All Together Better Health）参加報告 ・英国セントクリストファーホスピス研修報告 ・IPE 学生対象意識調査結果報告 ・IPW 精神班による医療観察病棟における医療観察法に基づく専門的多職種チーム（MDT：Multi-disciplinary Team）に関するヒアリングの結果報告 ・佛教大学の特色を生かした IPE 教育プロジェクトの検討 ・仏教学部の学生も交えたエンドオブライフケア関連の IPE プロジェクトの実施 ・EOL ケアをテーマとしたシンポジウムの開催について 	
4	1月31日(火) 17:30～	<ul style="list-style-type: none"> ・IPE プロジェクトの一環として、保健医療技術学部理学療法学科・作業療法学科・看護学科の合同ゼミ発表会の開催の報告 ・IPW 精神班による調査研究の進捗状況の報告 ・佛教大学の特色を生かした IPE 教育プロジェクトとしての EOL ケア教育プログラムの日程と内容の検討 ・EOL ケアシンポジウムの講師の選定、および日時と場所の決定 	

(2) 研究活動

	日時／場所	内 容	備考
1	9月6日(火)～ 9月9日(金) Oxford Brookes University (英国)	<p>ATBH（All Together Better Health）Ⅷ（2016）での発表と参加</p> <p>参加者：篠原、濱吉、松岡（克）、松岡（千）</p> <p>内 容：IPW を行う際に互いの価値観を意識し、各々の専門性や個性を尊重しながら、患者らの意思決定を支援していくために VBP（Value-based Practice）が重要となってくる。学会ではこの VBP の講義やセッションが行われていた。</p>	Ⅲ-1-2)-(2) 参照
2	9月8日(木) St Christopher Hospice Education Center (英国)	<p>英国 St Christopher Hospice 研修参加</p> <p>参加者：濱吉</p> <p>内 容：セントクリストファー病院のホスピス病棟では、医師、リエゾン精神科医、看護師、ソーシャルワーカー、チャプレン、理学療法士、看護助手、アロマセラピー等の補完療法士、ボランティアがチームで患者ケアにあたっていた。多職種ミーティングが週1回のペースで実施され、患者の価値観を基本に本人にとっての最善のケアについて検討されていた。</p>	佛教大学保健医療技術学部論集、11、65-75、2017 参照

3	9月23日(金) 地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター	IPW 精神科班の施設見学および今後の多職種インタビューに向けての事前情報の収集 内 容：院長補佐（医師）、看護師長、リハビリ課心理療法師、作業療法師、精神保健福祉士、病棟プライマリナースらによるケースカンファレンスへの同席、質疑、病棟見学	IV-1 参照
4	12月22日 佛教大学二条C N1-202	保健医療技術学部理学療法・作業療法・看護学科の合同ゼミ発表会の開催 発表者：保健医療技術学部理学療法学科（白星ゼミ）、作業療法学科（荊山ゼミ）、看護学科（松岡（千）・濱吉ゼミ）の各学生 内 容：3学科のゼミ生合同で卒業研究の発表会と質疑応答、討議を実施した。それぞれの学科の特色等を身近に知るための貴重な機会となった。	V-2-2)-(1) 参照
5	2月16日(木) 滋賀県立精神医療センター	司法精神病棟を担当する医師、看護師、精神保健福祉士、心理士、作業療法士を対象としたインタビュー調査 内 容：「保健医療福祉専門職のための IPE プログラムの開発と評価」にかかる精神保健福祉領域における IPW の現状と課題に対する聞き取り調査を実施した。	IV-2 参照
6	3月20日(月)～ 3月22日(木) 慈済大学、慈済大学病院、淡水高級高齢者マンション、台湾大学病院（台湾）	台湾における EOL ケア研修 参加者：日隈、濱吉、松岡（千）、後藤 内 容：台湾の EOL ケアにおける、臨床宗教師を含む IPW のあり方とそれぞれの役割について、医療の臨床の場に臨床宗教師の活動が導入され定着した経緯についてスタッフから聞き取りを行った。また慈済大学での IPE について、慈悲大学の学内見学と教員から説明を受けた。	佛教大学総合研究所紀要、第25号、87-92、2018 参照

3) 2017 年度

(1) 研究会・会議 場所：佛教大学二条C N1-320

	日時／場所	内 容	備考
1	4月5日(水) 10:00～	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度予算と計画について ・台湾視察研修報告 ・公開シンポジウムの打ち合わせ 広報チラシの確認と発送先の決定、シンポジウムの内容と流れの確認、役割分担 <ul style="list-style-type: none"> ・ともいき IPE プログラム（「学生対象の佛教大学の特色を生かした IPE 教育—End Of Life Care 教育の実施と検証—」）の開催日時の決定 	

II. ともいき IPE プロジェクトの概要

2	6月20日(木) 17:30～	<ul style="list-style-type: none"> ・公開シンポジウムの振り返り ・ともいき IPE プログラム（「学生対象の佛教大学の特色を生かした IPE 教育—End Of Life Care 教育の実施と検証—」）の構成、対象学生の参加人数の決定と募集方法についての検討 ・IPW 精神班の活動状況報告 	
---	--------------------	---	--

(2) 研究活動

	日時／場所	内 容	備考
1	6月10日(土) 紫野 C	<p>佛教大学総合研究所主催 公開シンポジウム「共生（ともいき）のところで考えるエンドオブライフケア～臨床宗教師・医療福祉専門職者の連携によるより良いケアを目指して～」の開催</p> <p>担当者：日隈・伊藤・漆葉・折坂・荻山・後藤・篠原・白星・白井・田尻・得丸・濱吉・林・松岡（千）・村岡・森安・吉浜・利木・吉見</p> <p>内 容：宗教家が緩和ケア病棟など看取りの場面に入り先駆的な活躍をしている台湾の臨床宗教師の活動報告、次いで日本の臨床宗教活動についての実践報告を受け、宗教家による EOL ケアへの関わりの意義について考える時間を設けた。さらに、社会福祉士・作業療法士・理学療法士・看護師の立場から考える EOL ケアの実践報告を受け、EOL ケアの場面における IPW の在り方について議論を行った。参加者は 100 名を超え、今後の本学における学生教育の在り方への示唆も得ることが出来た。</p>	佛教大学総合研究所紀要、第 25 号、77-86、2018 参照
2	7月8日(土)～ 7月9日(日)	<p>教員対象 IPE スキルトレーニング 2 の実施</p> <p>ワークショップ：「グループ・ファシリテーションの理論とスキル」</p> <p>講 師：ハワード・カツヨ（カリフォルニア州立大学フレズノ校名誉教授）</p> <p>参加者：教員、関係者 24 名</p> <p>内 容：IPW や IPE における小集団のグループダイナミクスを活用したファシリテートスキルのトレーニングを実施した。</p>	Ⅲ-3-2) 参照

3	9月11日(月) ～9月12日(火) 二条C N1-207	<p>「みんなで寄れば文殊の知恵!! 多職種で考える End of Life Care 学生対象プログラム」の実施と評価</p> <p>担当者：日隈・伊藤・漆葉・折坂・荻山・後藤・篠原・白星・白井・田尻・得丸・濱吉・林・松岡(千)・森安・吉浜・利木・吉見</p> <p>対象者：佛教大学仏教学部、保健医療技術学部理学療法学科、作業療法学科、看護学科、関西学院大学人間福祉学部の学部生・大学院生、計24名</p> <p>内 容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目：TRUE COLORS 入門講座ワークショップによる、多職種連携における個性の自己覚知とコミュニケーショントレーニング ・2日目：講義「人の End of Life を支える」と、学科混合グループによる事例検討の実施と共有 	Ⅲ-4 参照
4	12月22日(金) 14:30～17:00 二条C	<p>保健医療技術学部理学療法・作業療法・看護学科の合同ゼミ発表会の開催</p> <p>参加者：保健医療技術学部理学療法学科(白星ゼミ)、作業療法学科(荻山ゼミ)、看護学科(日隈ゼミ・松岡(千)・濱吉ゼミ)の各学生</p>	V-2-2)-(2) 参照